

各都市教頭会 研究報告 1

岐阜市小教頭会

豊かな人間性と 創造性をはぐくむ学校をめざして

岐阜市小学校教頭会は学校数48校、教頭数51名。年間11回、定例で5つのブロック別研修会と4専門部会（研究・組織・広報・厚生）、小中合同ブロック別研修会（年2回）を実施した。全国共通研究課題を受けて研修を進め、教頭として資質向上に努めている。

この一年間はコロナ禍の影響を受け、3密を避けて研修方法を工夫した。資料の厳選、時間の短縮は、「働き方改革」の実践としても意義あるものであった。今後も継続していきたいと考えている。

会場となる予定の「東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会」は、コロナ禍で中止となった。その結果、定例の研修は、情報の伝達や各校の現状報告を中心として行った。

（長森西小学校 左合 悟）

羽島市教頭会

羽島市の方針と重点における 学校課題の解決のための教頭のかかわり

令和2年度は以下の内容で課題研修を行った。

4月：組織、研究テーマ、活動計画

5月：コロナ対応

6月：コロナ対応

10月：コロナ対応、来年度の学校運営と行事

11月：コロナ対応、来年度の学校運営と行事、
新学習指導要領における評価（観点）

1月：各校の強みに学ぶ

3月：今年度の反省、来年度の方向

各校の取組を交流し、良さを学び合い、より良い方途を工夫して、自校の取組の向上につなげることができた。特に、感染症拡大防止の取組の工夫や、PCR受検者対応の留意点、来年度の学校運営や行事について交流し、より良い方途を工夫したことは、各校の取組を向上させることに大きく貢献した。

（羽島市立桑原学園 津田 英樹）

岐阜市中教頭会

家庭や地域との連携、 教育活動のスリム化と教職員の資質向上

本会では、24校30名の教頭が4つのグループの2部制で実践交流を行い、教頭としての資質向上に努めている。

今年度は、上記のテーマに関わり、PTA活動やコミュニティ・スクール、業務改善、危機管理に焦点を当てた実践交流を行った。加えて、次の研修も行った。

- ①情報セキュリティ研修（4月）
- ②中学校ブロック別研修（7月・2月）
- ③スクールロイヤー研修（11月）
- ④行動計画策定研修（12月）
- ⑤市内中学校見学及び校長講話（1月）
- ⑥教育長講話（6月・7月・10月）

以上の実践交流や研修により教頭としての資質向上を図り、勤務校の教育活動の向上に生かすことができた。

（三輪中学校 大梅 雅彦）

各務原市教頭会

教職員の専門性を高め、魅力ある 学校づくりを推進するための教頭の役割

各務原市が目指す教育『誇り・やさしさ・活力のある児童生徒～ひとりひとりが幸せを実感～』の実現に向け、教職員の資質能力の向上と教職員の専門性を高めるための効果的な研修について研究を推進した。

<研究の歩み>

①実践事例に基づいた課題研修

②各務原市教職員によるアンケート調査（研修について）の集計・分析

③教職員の専門性を高めるための講話による研修

<成果と課題>

各学校の実践事例や講話により、教職員の専門性を高めるための効果的な研修の在り方や教職員の資質能力の向上を図るための取組について学び合うことができた。今後は教職員アンケート調査を基にさらに効果的な研修について考え、改善を図っていきたい。

（中央小学校 篠田 恒子）

各都市教頭会 研究報告 2

山県市教頭会

組織を生かした学校経営 - 職員の参画意識を高め、組織の活性化を図る教頭の役割 -

市内全12校が、自校の強みと弱みを整理したSWOT分析の結果をもとに、改善の手立てを講じ、その実践を定例の教頭会にて交流した。

- ・学校運営協議会について、地域人材の名簿の整理や運営組織の編制、地域行事の企画・運営の中心的役割を果たした。地域社会に開かれた学校づくりのため、「学校コラボレーター」と呼ばれる人材リストを整備している。
- ・PTA 家庭教育学級における「在宅型」の取組として「家庭学習チャレンジ週間」を実践し、わが子の家庭学習に対する保護者の意識の啓発を図った。
- ・勤務時間の可視化、市内共通での諸帳簿の電子化、行事の精選などによって、職員の勤務の適正化を進めた。また、自主研修の開催などによって、若手職員の人材育成を図った。

(伊自良南小学校 丹野 憲一)

本巣市教頭会

豊かな人間性と創造性を育み 未来を拓く学校教育 ~ウィズコロナ時代における労務環境作り~

1 研究内容と成果

(1) 働き方改革

研究の主な内容は、コロナ禍における多忙化解消に向けた労務環境づくりについてである。

(2) 成果

PTA や地域ボランティアを活用し、担任の業務も教育的効果があるものみに厳選した。会議も減らし、ミニ職員研修会などでタイムリーな話題を職員に投げかけることで、自己を見つめ直す機会をもつことができた。

2 今後の課題

今年度はコロナ禍の中で、教職員の超過勤務は膨れ上がるばかりであった。教職員が働きやすく、やりがいのある職場になるよう、更に研究実践を進めたい。

(外山小学校 田口 めぐみ)

瑞穂市教頭会

校長の学校運営方針の具現を主体的・協働的に 図るための教職員への働きかけの在り方

感染症予防への配慮をしながらSDGsの観点から主体的・協働的な研究体制の再構築を試みた。また、キャリアステージや力量に応じて、「どんな力をつけ、どんな動きが求められるのか」を期首面談やチャンス面談で具体的に示し、成果や伸びを伝えた。

若手教員の学習や生徒指導における指導力の向上を目指して、ベテラン教員による示範授業や事前研等を数多く仕組み、単位時間で大切にしたい見方や考え方を明確にした。また、ミドルリーダーの経営・分掌を推進する力の向上を目指して、多忙感よりも自己充実感をもてるような働きかけや主任会をもつことで、モチベーションを上げることに努めた。組織の活性化に向けた働きかけや研修の効果については今後も検討していく。

(牛牧小学校 原 祐子)

羽島郡教頭会

豊かな人間性と創造性をはぐくみ、未来を 拓く学校づくりの推進と教頭のあり方

岐阜県教頭会の研究内容との整合性を図り、羽島郡の地域の現状等を加味した上で、研究主題を設定している。これまでの取組を継承し「組織を生かすための若手やミドルリーダーの育成」に焦点化し研修を行ってきた。

羽島郡小中学校教頭会は、羽島郡二町教育委員会の指導を受けながら、「実践事例の提案に基づいた研修」「教職員の資質向上を図る講話」を中心に年9回の研修会を行った。

実践事例を通して、教職員の資質向上や一体感のある職員集団づくりに向けて、教頭が若手やミドルリーダーにどのように関わり育成すればよいのかを話し合った。

今後も、組織マネジメントを充実させ、勤務のスリム化と資質向上のバランスを図りながら、研究を進めていく必要がある。

(笠松中学校 岡田 英隆)

各郡市教頭会 研究報告3

本巣郡教頭会

「たくましい北方の子」の育成

北方町小中学校教頭会は、1中学校、3小学校の教頭6名で構成されている、岐阜県一行政面積の小さなまちの教頭会である。北方町は、最重要施策として、教育環境の充実を目指す「北方学園構想」を掲げ、令和5年度に2つの義務教育学校を開校することを目指している。

今年度の教頭会では、北方学園構想を推進していくために小中学校の連携に取り組んだ。

主な取り組み内容としては次のとおりである。

- ・小・中兼務教諭等による教科担任制授業の導入
- ・諸行事の合同開催（各学年行事や学校行事等）
※新型コロナウイルス感染症対策のため今年度は中止
- ・日課表や9年間を見越した各教科指導系統一覧の作成
- ・学校危機管理マニュアルの見直しと改訂等

義務教育学校への円滑な移行に向けて小中学校の教頭がリーダーシップをとり「たくましい北方の子」を育てていく。

(北方西小学校 広瀬 政至)

海津市教頭会

社会に開かれた教育課程の実現に向けて ～新型コロナウイルス感染拡大防止を基盤にして～

コロナ禍において海津市の教頭が団結して、知恵を出し合うことが大切と考え、「生徒の主体的な学び」や「家庭及び地域との連携」について、各校の実態を踏まえた教育課程の編成、実施に積極的に取り組んだ。

研究の方法は、以下の2点である。

- ①SWOT分析による自校の外部環境と内部環境の利点の整理の上での研究実践
- ②定例の市教頭会（校区ごと含む）の実践交流と情報交流

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組及び家庭、地域の教育力の活用を図る方途などを交流した。特に「教頭の働きかけ」がどのような成果を生んだかを明らかにし、「自校で可能なことは即実践」で取り組むことを今後も大切にしたい。

(平田中学校 松家 隆弘)

大垣市教頭会

教職員の専門性を高め、資質向上を図るための教頭の役割 ～学校種別・規模に応じた学校体制づくりを通して～

令和元年度に引き続き上記主題を設定し、校種、学校の規模、学校の実態など、自校の強みが生かせるようにした。特に自立・協働・創造の一層の高まりをめざすとともに、教頭会や校区の小中学校で情報を共有することを心掛け、各校で実践を重ねた。

令和2年度は、視察や研究会・講演会参加ができなかった分、毎月の教頭会で積極的に実践交流を行い、研究を推進した。

その結果、ミドルリーダーを育てて研修体制を構築し、資質向上を図ると効果的であることが確認できた。また、働き方改革の推進と資質向上の両立を図るには、研修の目的に応じた時間の使い方や方法の検討が重要であることも確認できた。

今後は、教職員のコンプライアンス・危機管理意識の向上と対応力の育成を図る研修の在り方について、さらなる研究実践を積み重ねたい。

(江並中学校 大坪 光)

養老郡教頭会

一人一人が輝く教育の創造 ～地域の教育力の活用、教職員の資質向上、やりがいのある職場の推進～

全学校で実施しているコミュニティ・スクールを基盤とした教育・支援活動の充実、教職員の勤務の適正化と資質向上を推進する上で、教頭として調整力・企画力・組織力・指導力を発揮することを重点に取り組んだ。

勤務の適正化、新型コロナウイルス感染症対応などでは、小中学校教頭会で情報共有を図るとともに、事例研修で他校の実践を学ぶことで、自校の取組を充実させることができた。また、「良さみつけ」「あったかい言葉かけ」を継続し、地域の教育力を生かして児童生徒の自己肯定感を高めることができた。

今後も小中学校教頭会での情報共有と行動連携を密にしながら「一人一人が輝く教育」の推進役としての役割を果たしていきたい。

(高田中学校 林 徹爾)

各郡市教頭会 研究報告 4

不破郡教頭会

豊かな人間性と 創造性をはぐくむ学校をめざして ～教職員一人一人の資質や能力を高める教頭の在り方～

本テーマを具現するためには、教職員一人一人の資質や能力を高め、それぞれの分掌で主体的に業務推進・改善する力を高めていくことが必要である。

今年度は、様々な業務の中から

- ①危機管理・防災
- ②業務改善・働き方改革
- ③教職員の資質向上

の3点に実践内容を絞り、各校で実践分野を分担して実践を行った。

教頭会において、各学校での実践を、グループ交流を通して研修し、コロナ感染症予防の内容や、働き方改革に関わる業務精選や方途等の情報共有を図ることができ、勤務校への実践に生かすことができた。

(今須小学校 奥村 直也)

揖斐郡教頭会

児童生徒の可能性を伸ばす 教職員の専門性を高める教頭の役割

揖斐郡では、次のように三町がそれぞれにサブテーマを設定し、研究を進めた。

- ・揖斐川町「各校の課題や教頭の強みを生かした実践」
- ・大野町「学力向上に関わる各校の課題に対する実践」
- ・池田町・養基組合「職員の専門性を伸ばす各校の研修について」

教職員の専門性を高め、より質の高い教育を提供するための、教頭としての役割について実践交流を中心に成果と課題を確認した。

今後も学校規模や教育環境が異なる中で、教頭間のネットワークを大切にしつつ、意図的な校内研修の設定、職員間のコミュニケーションの活性化に力を入れ、教職員の資質向上を目指していきたい。

(大野中学校大野分校 桐山 明工)

安八郡教頭会

誰もが自己肯定感をもち、 生き生きと生活できる学校をめざして ～組織の活性化を図る教頭の役割～

近年、若手職員の増加、学校規模により一人が受け持つ校務分掌の増加が課題となっている学校が多い。若手職員が組織の中で責任を果たすことができるよう、教頭の役割を明確にして実践を行った。

(1)組織を活性化するための校内体制の工夫

2・3年目の若手職員に全校に関わる校務分掌を任せたり、若手だけで授業研究会をしたりし、学びの場を設定したことで、やりがいと自信をもって活動する姿が見られた。

(2)教職員一人一人の資質や専門性を高める研修の充実及び取組

生徒指導交流を行う際、交流後に指導のポイントや共通理解すべきことを話すことで、情報交流だけでなくミニ研修になり、全職員で生徒指導の在り方を学び合うことができた。

(輪之内中学校 浜田 一郎)

関市教頭会

夢のある明るい学校づくりの推進 ～子どもの発達に向き合う取組と教頭の役割～

不登校児童生徒の増加、発達に課題を抱えることで学級に馴染めない児童生徒の増加など、多くの学校で喫緊の課題となっている。そこで教頭の役割を明確にし、「発達」という視点で子どもの支援や指導を工夫することで「夢のある明るい学校づくり」を推進できると考え、本主題をもとに実践を進めた。

I 「子どもの発達」に関わり、「中濃子ども相談センター」専門職、「児童心理治療施設 桜学館」施設長を迎え、講演を年2回実施した。

II 職員構成表とSWOT分析による学校の外部・内部環境の把握をもとに、そのよさを生かしたり克服したりする取組を、各校で工夫し実践した。

III 小中9年間の発達の段階にもとづき、切れ目なく支援することを目指して、発達に課題を抱える子どもへの支援、小中連携による生徒指導、発達の段階に応じた教科指導などの実践を交流した。

(旭ヶ丘中学校 後藤 良二)

各郡市教頭会 研究報告5

美濃市教頭会

美濃学を充実させるための 教頭としての役割

美濃市教頭会では、県の「地域社会人」として活躍できる人材育成をめざすという方針を受け、子ども達が美濃市に誇りをもつために、美濃学など地域との深い関わりのある学習を各校で共有し、教頭としての関わり方を探ってきた。

各校でアンケートを実施した結果、約5割の児童生徒が美濃市の自慢できることをもっていた。しかし美濃学の講師の願いや思いを知っている児童生徒は1割と少ないことや、同じ美濃市であっても他の校区の伝統行事を知らない子が多いことが分かった。その他、講師の高齢化に伴い、引き継いでいただけの講師が分からないなどの課題が明確になった。そこで今後、次の3つに取り組むことを決めた。

- (1)講師のデータを共有できるようにする。
- (2)講師と児童生徒の対話の場を設定する。
- (3)学校間で交流できる場を設定する。

(牧谷小学校 富村 竜也)

美濃加茂市教頭会

自己にきびしく人にやさしい 心身ともにたくましい児童生徒の育成

美濃加茂市では、『FROM-0歳プラン2』を推進し、0歳から幼保小中高の連携や積み上げを大事にしたロングスパン教育を重点のひとつに掲げて取り組んでいる。

令和2年度は関係諸機関との連携を図った研修及び各校での実践についての交流を行った。子ども相談センターとの連携では、児童虐待の理解と対応をテーマに事例を通した研修を行い、管理職としての動きについて理解を深めた。また、幼・保・小・中との連携では、各発達段階での実態や指導内容を理解するとともに、幼保小、小中の交流や引継ぎの重要性について共通理解を図ることができた。

(三和小学校 柴山 幸宏)

郡上市教頭会

全ての子どもたちの能力を伸ばすきめ細かな教育をめざして ~子どもが育つ環境整備と教員の指導力向上における教頭の役割~

本市は、特別支援学級入級申請者や不登校・別室登校の児童生徒が増えている。学校組織体制づくりや関係諸機関との連携、校内研修の充実等が全ての子どもたちの能力を育てていくことにつながると考え、本主題を設定した。

研究2年目の今年度もグループ別研修を通して実践を進めた。任意グループによる実践交流後に個人テーマを設定し、テーマ別グループを再編した。外部講師を招聘した研修会でテーマ追究を図ったり、実践上の悩み等を交流したりして個々の研究をグループで共有する場を設けた。研修の最終回は、異テーマのメンバーで実践発表グループを編成した。

コロナ禍による研修回数や時間の縮小により、グループでの検証が不十分になる傾向があったが、研修会の持ち方を工夫し自校での実践に生かそうと熱心に交流する中で、教頭としての役割を自覚するよい機会となった。

(和良小学校 吉田 靖)

可児市教頭会

児童生徒の学校適応促進のための体制と マネジメントの在り方

長期休校の影響もあり、児童生徒の学校不適応が増加傾向にある。教頭として、主に以下の5点に示す対応を進めた。

- I 教育調査など、児童生徒や学級のアセスメントを実施する。調査結果に基づいて対応方針を決定し、職員と共有する。
- II 1次、2次、3次支援を網羅した学校全体の体制づくりや、チーム学校の趣旨を生かした指導体制づくりを進める。
- III 定期的な事例検討の場の設定や対応指針の作成など、対応のシステム化を進める。
- IV 学力向上への取組（特に学業不振、学習の個別最適化への対応）を進める。
- V 職員の「学校適応を促進する（不適応に対応する）指導力」と「授業力」を向上させる指導や研修を行う。

(広見小学校 奥村 尚浩)

各郡市教頭会 研究報告 6

加茂郡教頭会

子どもが安心して過ごせる学校づくり・ 分かりやすい授業づくりを目指して

加茂郡小中教頭会では、テーマ具現のために、若手・中堅教員の資質向上に向け、As（アセス）として「キャリアステージにおける指標」を活用し、「自主・向上性」と「同僚・協働性」を高める「組織力を育成に活かす体制づくり」を柱として研究に取り組んできた。なお、本年度は会員全員が集まることが困難であったため、資料配付により提案者の実践を共有することで研究を進めた。

昨年度までの成果を生かして、メンターチームを組織し、同僚性と協働性を発揮しながら互いに向上させる取組を継続してきたことにより、若手・中堅教員の自主・向上性も発揮されるようになった。今後は組織力の更なる活性化と若手教員の授業力、学級経営力、生徒指導力の育成にも努めたい。

(佐見中学校 鶴飼 修巳)

多治見市教頭会

組織マネジメントによる 学校力向上のための教頭の役割

上記のテーマの具現に向け「学校課題の把握」「円滑なコミュニケーションの工夫」「協働体制の構築」の3点を重点項目とした。さらに喫緊の課題であるコロナ禍における学校運営という視点も踏まえて研究及び研修を推進した。

コロナウイルス感染防止の中で制約がある中、主として以下の2点に取り組んだ。

一点目は、SWOT分析による学校課題の明確化と組織マネジメントの実践発表である。各学校の実践具体を発表するとともに、「働き方改革」に向けた業務の効率化などの共通の課題については、全体で意見交流を行い、学校力向上に向けての教頭の役割を共有することができた。

二点目は、コロナ禍における学校の正常化や安定化に向けての研修である。「コロナウイルス感染防止と熱中症予防との関連」「多治見市のGIGAスクール構想に向けて」など、昨今の状況下における喫緊の課題について講師を招き、研修を深める中でテーマの具現を目指していった。

(市之倉小学校 加藤 隆史)

可児郡教頭会

家庭や地域との連携、 教育活動のスリム化と教職員の資質向上

郡教頭会を基盤に「学力向上推進委員会」を年5回実施している。その中で、年3回の各中学校区における「小中交流会」の計画や取組経過等の交流を行い、より系統性のある指導、小中の接続がさらに充実するような取組を工夫する機会としている。

今年度は、コロナ禍により「小中交流会」を通常のように行えなかったため、方法を工夫したり内容を簡略化したりしながら互いの取組について交流し、成果と課題を明確にして、次年度の方向を確認するようにした。

その取組について、郡教頭会で交流することで、授業改善や児童生徒の活動等、各校区のよさや課題を知り、自校で生かすことができた。また、顧問校長から指導を受け、今日的な課題を認識し、郡全体で共通理解すべきことが明確になった。

(上之郷小学校 吉田 美恵子)

土岐市教頭会

「生きる力」の育成と今日的課題に応じる 教育を推進するための教頭の役割 ～学力向上に向けた授業改善における教頭のあり方～

今年度より「夢・絆プラン～人との絆の中でふるさとへの愛着と誇りをもち、夢を実現できる人を育てる土岐の教育～」がスタートした。「未来を切り拓いていく資質・能力を育成する」を目標に掲げ、

①子どもたちが主体的に取り組む学習指導の確立

②感性や想像力を発揮し、自分の考えを広げたり深めたりする協働的な学びの実現

を目指す。

一方、教職員においては、専門教科の授業について学び合う機会が減り、ベテラン教師による若手教師への伝承の難しさや、授業力格差が課題となっている。そこで、土岐市教頭会として、「確かな学力の育成」に重点を置き、学力向上推進委員会と共に校種間連携を強化する等、「土岐市スタンダード授業」を切り口に、授業改善を進める中で、教頭の役割を明らかにしてきた。(妻木小学校 下畑 茂)

各郡市教頭会 研究報告 7

瑞浪市教頭会

学校の課題解決に向けたシステムの構築

1 主題設定の理由

瑞浪市の学校経営の重点「チームとして磨き合いと活力のある経営」へ向け、テーマを設定した。

2 研究の歩み

テーマを「学校の課題解決に向けたシステムの構築」とし、各校の学校課題に係る研究を進めた。

3 研究内容と成果

(1) 実践交流・実践成果交流会の実施

実践交流（年8回）実践成果交流会（年2回）

○各学校の取組を参考にしたシステムづくり

(2) 年4回の研修講話・研修会の実施

（教育長・校長・CS実践校講話、CS説明会）

○瑞浪市の今後の方向に関わる共通理解

4 今後の課題

●継続した実践の積み上げ

●誰が担当しても行事や活動が円滑に実施できるシステムのさらなる構築

（稲津小学校 山口 政有）

中津川市教頭会

子どもの発達に関する課題を解決していくための教頭の在り方 ～特別な支援を要する全ての児童への対応～

中津川市では、学校教育のキーパーソンである教頭が、「特別な支援の必要な子どもへの対応」「すべての子どもの発達を踏まえた指導」について、指導力を発揮している。

中津川市教頭会では、職員を組織で動かすことや諸機関と連携を図ることで、子どもの発達に関する課題を解決していくことができると仮説を立てた。

中津川市がめざす「たくましさの育成」に照らし合わせ、特別支援教育に限定することなく、通常学級に在籍する児童生徒がもつ課題についても、組織的に解決できるよう実践を積み重ねてきた。

今年度は、実践交流をする中で、課題解決に導く支援の全体像が分かるとともに、教頭として、どのタイミングでどのような手を打ったのかなど、具体的にすることで、さらなる教頭としての在り方を追求することができた。

（神坂小学校 棚橋 英生）

恵那市教頭会

豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして ～組織の活性化と、教職員の指導力向上～

コロナ禍でも豊かな人間性と創造性を育む学校を目標とし、柔軟な発想で組織的な学校運営を推進することを目指し、本主題を設定した。

◆研究の歩み

4・8月 組織づくり、研修計画の立案

9月 喫緊の課題の情報交流

10月 恵那市のGIGAスクール推進について

11月 児童養護施設との連携と児童生徒理解

12月 学校安全講習、PCR陽性者発生後の学校運営

1月 児童相談所との連携、保護者対応演習

2・3月 退職校長から学ぶ・今年度の反省

◆今後の課題

学校の小規模化・教職員の減少化の中、コロナ禍でもできることを模索する教職員の指導力や組織力向上のための方途、外部諸機関との連携等の在り方について、今後も研究を進めていく。

（東野小学校 市岡 早苗）

高山市教頭会

挑戦し続けるたくましさの育成 ～ふるさとと協働する学校づくりを通して～

高山市は、本年度より第3期教育振興基本計画として学校教育等の基本的方向等を定めた。その中では「郷土高山に根ざし、未来を切り開くための資質・能力を育む」こと等が示されている。これを受け、今年度から教頭会の研究テーマを見出しのように変更した。

研究は、地域の特徴や実情を生かせるよう、市内31校を、旧市内と支所地域を基にした7ブロックに分けて進めた。

研究内容としては、「組織・運営に関する課題」を明らかにしていくことを共通課題とし、各ブロックの実態に合わせて取り組んだ。「個の発達に応じた支援を行うための幼保小中の連携」や「『つながりの会（学校運営協議会）』と協働する学校づくり」等、ブロックごとのテーマを視点に取組状況等を交流した。

（国府小学校 石腰 博昭）

各郡市教頭会 研究報告 8

飛騨市教頭会

「志を語り合い しなやかに挑み続ける
飛騨びとを育む」教育を推進する教頭の役割
～保小中高特・地域の連携を通して～

市内各小中学校では、人やふるさとと深く関わる教育活動を通して、将来の担い手を育成することを目指す教育活動に取り組んでいる。その中で、教頭の果たす役割について研究を進めた。

まず、学校が地域と共に活動を進めるために、校内組織だけでなく、学校外の既存の組織・団体との協働体制を築き、それぞれの特長を生かした活動を教頭が核となって進めてきた。また、子どもたちが地域に貢献する活動も教頭が中心となって進めてきた。

さらに、「飛騨市学園ビジョン」を受け、共通のカリキュラムモデルと各校の既存の総合的な学習との調整を、教頭が中心となって取り組み始めている。

(山之村小中学校 石原 啓悟)

大野郡教頭会

心豊かで、たくましく、ひとりだちする子
～ふるさと白川郷に夢と誇りを～

- ①自分で考え行動できる姿（自立）
 - ②進んで他と関わり、自己を高める姿（共生）
 - ③他のために働く姿（貢献）
- ・保学一貫教育による成果を具体的に発信できるように、特別支援教育コーディネーターや特別支援教育担当者が保学の連携の懸け橋となり各組織が連携して機能できるような態勢を整えた。
 - ・資質向上研修を通して、総合的に教頭としての力量を身に付けた。
 - ・5つの管理の力量を高めた。（児童生徒・教育課程・職員・施設・文書の管理）
 - ・教育長・校長の講話、村校長会等の情報を通して力量を高めた。
 - ・全校研究会や各教科部の授業実践等を通して、職員の授業力及び資質向上を図った。

(白川郷学園 岸 貴彦)

下呂市教頭会

下呂市喫緊の課題に挑む
～授業改善と部活動改善の視点から～

授業改善では、「仲間学びありきの授業からの脱却」に取り組んだ。ともすると意見が活発に飛び交う授業に紛れ、思考がストップしてお客さん状態で1時間の授業をやり過ごしていた児童生徒はいなかったか。今年度は「どの子にも」をキーワードとして、課題をもち、その子なりの学び方で課題を乗り越えようとする姿を引き出す授業にこだわり、各学校での授業改善の指導を行った。

部活動改善では、少子化により部が成立しない・専門的な指導が受けられないなどの課題を、下呂市を北部と南部に分け、合同部活動を実施することで解消しようとする動き出しができた。また、部活動の指導時間が超過勤務につながっている現状を踏まえ、5時間授業の日に部活動を実施し16:30下校とする新しいスタイルへの移行を熟議中である。今後も継続して取り組みたい。

(下呂中学校 益田 貴史)